

⑨Int.Cl. ⑩日本分類
A 61 k 31 B 0

日本国特許庁

⑪特許出願公告

昭47-7560

⑫特許公報

⑬公告 昭和47年(1972)3月3日

発明の数 1

(全3頁)

⑭バック化粧料の製造法

⑮特 願 昭38-30336

⑯出 願 昭38(1963)6月8日

審 判 昭40-1214

⑰発 明 者 下山佑

東京都品川区大井山中町4165

⑱出 願 人 鐘淵紡績株式会社

東京都墨田区奥通3の3の26

代 理 人 弁護士 水口幸一

発明の詳細な説明

本発明は遊離酸型カルボキシビニルポリマー
(以下カルボキシビニルポリマーと略記する)
とポリビニルアルコールより成るバック化粧料の
製造法に関する。

バック化粧料は皮膚に刺激を与えず塗布時に装
粧物を与え且つ乾燥時に皮膚に適当な緊張感を与
えて皮膚を引締め又皮膚を外気から1時的に遮断
する事に依つて皮膚の新陳代謝を旺盛にすると同
時に皮膚の不潔物や過剰の脂肪を除去するもので
ある。

従来バック化粧料は下記の方法に依り製造され
ている。

- (1) ポリビニルアルコールを基体粘着物質とし、
之に化粧用クリーム又は油脂薬品等を配合する。
- (2) カルボキシ・メタル・セルローズを基体粘性
物質とし之にポリビニル・アルコール化粧用薬
劑を配合する。

然し乍ら前記方法に於いては組成物中に含まれ
るポリビニルアルコールは皮膚に対する親和性大
であり無害であつてバック化粧品基材としては極
めて優れたものであるが、溶解度約10%前後
の非常に狭い濃度域に於いて形成皮膚の性質が大
きく変化し、低濃度域では皮膚形成速度が著しく
緩慢であり又生成皮膚も脆く塗布後剥離不能とな
る。一方ポリビニルアルコール濃度が10%より
高濃度域では形成皮膚の皮膚に対する接着力が大

きすぎ剥離時に苦痛を感じる。

本発明者らは上述の諸点に鑑み鋭意研究を続け
た結果塗布するに好適な粘度と剥離性のよいポリ
ビニルアルコール含有薄膜形成方法を見出し本発
明を完成したものである。

本発明の目的は皮膚に無害で親和性がよく塗布
するに好適な粘度を具えた強力且つ剥離性に優れ
たビニル系樹脂より成る透明性のよいバック化粧
料を提供するにある。他の目的は強力且つ剥離性
並びに透明度のよいポリビニルアルコールとカル
ボキシビニルポリマーより成るバック化粧料用皮
膜を提供するにある。他の目的並びに効果は以下
の説明から明らかにされよう。

本発明は生成化粧料に対して1~4重量%に相
当する量のカルボキシビニルポリマーに保湿剤と
水とを加えて膨潤せしめた水溶液35~60重量
部と生成化粧料に対して10~20重量%に相当
する量のエチルアルコール、2~8重量%に相当
する量の重合度1500~2500のポリビニル
アルコール、可溶化剤及び助記カルボキシビニル
ポリマーの中和剤更に必要に応じて香料その他の
化粧品用配合物中の一種又は数種を溶解せる水溶
液40~65重量部とを混合して中和せしめるこ
とを特徴とする。

本発明の実施に当り特に重要なことはポリビ
ニルアルコール水溶液の濃度が10%以下であつて
も短時間で強力な皮膜を形成し、皮膜が容易に剥
離する様にカルボキシビニルポリマー1~4%
(重量)を併用して更に濃度10%以下では流動
状液体のポリビニル・アルコール水溶液をカルボ
キシビニルポリマーを中和せしめて成る透明ゲル
の作用に依り、液状から一挙に硬度3~6(飯尾
式カードメーターで測定)の水晶様透明ゼリー状
にした点にある。

本発明に係るバック化粧料は生成化粧料を基
にして

- (1) カルボキシビニルポリマー1~4%(重量)
に保湿剤とほぼ同量の水とを加えて攪拌し膨潤

(2)

特公 昭47-7560

3

4

せしめた後、適量の水を徐々に加えて攪拌膨潤せしめ、粘性のある液を作りこれをA液とする。
 (2) 次にエチルアルコール10～20%（重量）中に可溶化剤、カルボキシビニルポリマーの中和剤、及び必要に応じて香料、色素、防腐剤、
 5 ヘキサクロロフェン、パントテン酸ナトリウム、ホルモン、ビタミンB6、ビタミンG1、ビタミンAD油、アミノ酸、卵黄油、の如き栄養物及びその他の化粧品配合を適宜組合わせて60で前後に加熱し溶解せる液に、ポリビニルアルコール2～8%（重量）を添加溶解せしめた後、
 10 適量の水を徐々に加えて気泡が混入せぬ様に緩やかに攪拌、又は放置して均一に膨潤せしめ透明で粘性のある液を作りこれをB液とする。

(3) 最後にA液35～60%（重量）とB液40
 15 ～65%（重量）とを混合攪拌して中和する事により製造し得るものである。

本発明に使用されるカルボキシビニルポリマーの1%水溶液の粘度は約2500CPSであるが、これに1%の中和剤例えばトリエタノールア
 20 ミンで中和すると生成したゲルは100000GPS以上に達する。生じたゲルは非常に安定であり、アルコールを含有せしめると皮膚上で乾燥時に凝状になる。

本発明に使用するポリビニルアルコールは部分
 25 酢化ポリビニルアルコールが好適であり、平均重

合度が1500～2500のものが好ましい。
 1500未満では充分な強度を有する皮膜が形成し難く又、2500を上廻ると膨潤が困難になる。
 保湿剤としてはグリセリン、プロピレングリコール、ソルビトール、ポリエチレングリコール等の
 30 多価アルコール類が挙げられる。又可溶化剤としてはポリオキシエチレン・ソルビタンモノオレート、ポリオキシエチレン・ラウリルアルコール・エーテル、ポリオキシエチレン・ソルビタンラウレート、ポリオキシエチレン・ヒドロジエネー
 35 テッド・カスターオイル、ポリオキシエチレン・オレイル脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン・ポリオキシプロピレンセチルエーテル等がある。中和剤としては水酸化カリウム、水酸化ナトリウム、炭酸ナトリウム、
 40 ディンプロパノールアミン、トリエタノールアミン、2-アミノ-2-メチル1-3プロパンジオール、2-アミノ-2-メチル1-3プロパノール等のアルカリ性物質を使用する。

本発明により製造された透明度の優れたパツク化粧料はカルボキシビニルポリマーを中和に
 45

依りゲル化し又アルコールの揮発に依り透明度は更に向上し、水晶様の美しい外観を呈する。斯様なゲル状パツク化粧料は塗布時に摩擦することに依り1度生成したゲルは液状となり、
 5 塗物を皮膚に広く伸展せしめると共に深部迄浸透せしめ、約20分間室温にて放置すると揮発分の蒸発により乾燥しカルボキシビニルポリマーとポリビニルアルコール及び保湿剤の作用により透明な薄皮膜を形成し、皮膚に緊張感を与え、皮膚を外気より一時的に遮断して新陳代謝を旺盛に賦活せしめ薄皮膜を剝離時に毳毛と接着剝離する事もなく皮膚上の有垢物並びに過剰の脂肪類等を除去する優れた効果を奏するものである。

次に実施例を挙げて本発明を説明する。

実施例 1

A 液

遊離酸型カルボキシビニルポリマー	1gr
グリセリン	5gr
水	30gr

B 液

ポリビニルアルコール（酢化度86～89モル%：重合度2000）	6gr
エチルアルコール	15gr
ポリオキシエチレンソルビタンモノオレート	2gr
香 料	0.5gr
防 腐 剤	0.1gr
ビタミンAD油	0.1gr
水	38.9gr
ディンプロパノールアミン	1gr
アミノ酸	0.4gr

より調製したA及びB液を混合攪拌して中和すればA、Bの混合液は一挙にゲルとなり透明で粘性あるパツク化粧料が得られる。

実施例 2

A 液

遊離酸型カルボキシビニルポリマー	2gr
プロピレングリコール	4gr
水	30gr

(3)

特公 昭 47-7560

5

6

B 液

ポリビニールアルコール(鹸化度 86~89モル%：重合度1700)	8 gr
エチルアルコール	20 gr
ポリオキシエチレンラウリル アルコールエーテル	3 gr
香 料	0.5 gr
防 腐 剤	0.1 gr
水溶性ラノリン	2 gr
水	29.4 gr
チンプロパノールアミン	1 gr

より調製したA及びB液を混合攪拌して中和すればA、Bの混合液は一挙にゲルとなり透明で粘性
あるバツク化粧料が得られる。

実施例 3

A 液

遊離酸型カルボキシビニールポリマー	3 gr
ソルビトール	3 gr
水	30 gr

B 液

ポリビニールアルコール(鹸化度 86~89モル%：重合度2400)	3 gr
エチルアルコール	15 gr
ポリオキシエチレンハイドロジェ ネーテッドカスターオイル	2 gr
香 料	0.5 gr
防 腐 剤	0.1 gr
水	41.8 gr
トリエタノールアミン	1.4 gr
ビタミンB ₆	0.1 gr
ビタミンC	0.1 gr

より調製したA及びB液を混合攪拌して中和すればA、Bの混合液は一挙にゲルとなり透明で粘性
あるバツク化粧料が得られる。

実施例 4

A 液

遊離酸型カルボキシビニール ポリマー	2 gr
ポリエチレングリコール	4 gr
水	30 gr

B 液

ポリビニールアルコール(鹸化度 86~89モル%：重合度1500)	5 gr
エチルアルコール	20 gr
ポリオキシエチレンセチルエーテル	1 gr
香 料	0.5 gr
水	36.8 gr
水酸化カリウム	0.1 gr
ヘキサクロロフェン	0.5 gr
パントテン酸ナトリウム	0.1 gr

より調製したA及びB液を混合攪拌して中和すればA、Bの混合液は一挙にゲルとなり透明で粘性
あるバツク化粧料が得られる。

特許請求の範囲

1 生成化粧料に対して1~4重量%に相当する
25 量の遊離酸型カルボキシビニールポリマーに緩衝剤
と水とを加えて膨潤せしめた水溶液35~60重
量部と生成化粧料に対して10~20重量%に相
当する量のエチルアルコール、2~8重量%に相
当する量の重合度1500~2500のポリビ
30 ルアルコール、可溶化剤及び前記カルボキシビ
ニールポリマーの中和剤更に必要に応じて香料その他
の化粧品用配合物中の一種又は数種を溶解せる水
溶液40~65重量部とを混合して中和せしめる
ことを特徴とするゲル状バツク化粧料の製造法。

引用文献

- ラバーダイジェスト 昭33. 8. 15 第42
~49頁 ラバーダイジェスト社発行
40 化粧品学 池田鉄作著 昭35. 2. 10. 第17,
31~33頁 南山堂発行